

阿蘇の草原キッズになろう～指導者編～事業報告書

企画指導専門職 加治佐秀樹

1 事業概要

(1) 実施期間

平成27年8月 6日(木)

(2) 活動場所

国立阿蘇青少年交流の家(研修室・野草園)・小堀牧野

(3) 参加者

10名(教職員:5名 一般:4名 交流の家職員:1名)

(4) 事業内容

講義 「草原と人との関わり」(高橋先生)

フィールドワーク① 「あか牛とのふれあい」(田島さん・木部さん)

フィールドワーク② 「草原にねむる宝探し」(市原さん・木部さん)

体験活動「紙すき体験」(宮野さん)

草原キッズ・プロジェクト紹介 (藤田さん)

実践発表「草原環境学習 基本プログラム発表」(廣津先生)

2 成果と課題

(1) 成果

- ① 講師の方々により、草原と人のつながりや草原や生物の多様性などを学習することができ、時代のニーズにあった草原の価値について考えることができた。参加者からも「草原というキーワードだけでこんなにも活動の幅が広がるのかと驚くこともあり、意見の深まりも見られた。」「フィールドワークがとても楽しく、実感を伴って理解できました。」「クラスの子ども達にも体験させたい。」という感想を得ることができた。
- ② 小堀牧野、交流の家野草園のフィールドワークでは、田島さん・市原さん・木部さんの人柄に触れ、あか牛に対する愛情や草原を守る熱意をじかに感じることもできた。
- ③ 「阿蘇に住む子ども達にどのように草原の良さを伝えていくのか、郷土愛、自然体験の視点から考えさせられた。取り組みのヒントがたくさん詰まっている研修となった。」という感想をもたれた先生が、2学期に実践したいという意欲を話された。草原学習に取り組む先生を増やしたいという本事業のねらいが達成できた。

(2) 課題

- ① 次年度に向けて、本年度の内に実施時期も含めて、教育事務所や委員会に協力を依頼しておかないといけない。また、研修終了後の参加者の活用方法など、草原環境学習小委員会と連携し、講習会のあり方(育成・実践)を再度検討したい。
- ② 参加者が少数だったので、アイスブレイキング(ネームトスなど)を入れればよかった。また、日程等は参加確認書や参加者ノートに入れてあったので、特に説明はしなかったのだが、やはり入れるべきであった。

3 活動の様子

